

白金の丘学園における分散登校の考え方

6月1日から分散登校が始まりました。子供たちが元気に登校し、学園の主役（児童・生徒）により白金の丘学園に活気が戻ってきました。保護者の皆様には、新型コロナウイルスの感染予防にご理解いただき、分散登校などの対応にご協力くださり感謝申し上げます。

この間、保護者からご意見・ご質問をいただきましたので、共有するとともに改めて白金の丘学園の分散登校の意図をお伝えいたします。

なお、分散登校の様子につきましては、ホームページのブログ（毎日更新しております）に掲載しておりますので、ご覧ください。

白金の丘学園にいただいたご意見・ご質問

Q1:白金の丘学園の分散登校のやり方は、どうして学級ごとなのですか。

A1:白金の丘学園は、施設一体型の小中一貫教育校で、小学生が748名、中学生が155名、合計903名の児童・生徒が在籍しています（区立学校では3番目の大規模校です）。多くの児童・生徒がいることから感染予防を第一に考えた上で、白金の丘学園で大切にしたい教育や児童・生徒・保護者にとってわかりやすい分散登校のシステムを検討しました。

白金の丘学園で大切にしたい教育

①感染予防

各学年のフロアでの密集を半減させつつ、児童・生徒が自分の登校日を理解しやすくするため1組・3組の登校日を月曜日・木曜日に、2組・4組を火曜日・金曜日としました（中学校は講師の先生の勤務の関係で多少入れ替わっています）。

②学級の所属感と学級担任との人間関係づくり

4月から2か月間、学校が休業であったため、不安を抱えている児童・生徒も多いと思います。まずは、精神面での安定を図るため学級ごとの分散登校としました。

③質の高い学習

学級ごとの分散登校により、登校しない学級の担任や副担任が登校している学級の支援に入ることができます。学習面のみならず、感染予防（消毒等）などのフォロー体制を組みやすくしました。また、登校しない日の家庭での学習と連携を図り、学校の授業で学び合ったり、教員が解説することによって効率よく授業を行います。加えて、登校日に多くの教科を学ぶことができるようにするため、一部の授業を30分とし、質を高めています。

④学校生活のリズムの定着

1日の学校生活に慣れることをねらいとして、また慣れない学校生活で体力を消耗することから登校する曜日を週2日に限定する一方、1日の学校生活をなるべく通常に近い形に設定しました。

⑤1年生・6年生・9年生への配慮

入学したての1年生には学校生活に慣れることを目的に、今年度卒業迎える学年には学習の機会を提供するため、水曜日を対象学年の登校日としました。

Q2:学年により、学級が一緒に学んでいたたり、2つに分かれていたりするのはなぜですか。

A2:A1の②にも記載しましたが、最初は、学級づくりを大事に考えています。特に低学年(1・2年生)は、初めての学校、初めてのクラス替え等で、不安も大きいため、学級担任による声かけを大切にしたいという意味もあります。他の学年でも学級担任、学級のメンバーが顔を合わせて自己紹介をしたり、学校や学級のルールを伝えたりするため、学級での活動をしています。学級で活動する場合は感染予防のため、教室横のオープンスペースを活用し、机の間隔を可能な限り広げるなどの工夫をしています(4年生は学年フロアのオープンスペースが狭い関係上、最初から学級を2分割し、学校生活をしています)。教科の授業は、内容にもよりますが2つの教室に分かれて活動するなど工夫しています。なお、来週から始まる給食は、2つの教室に分かれて食べます。

その他、登校する児童・生徒の登下校時刻が揃っているため、登下校誘導シルバー、学校警備、学年の教員、主事、管理職など、多くの目で登下校を見守ることができ、交通安全に配慮できることもメリットであると考えています。また、波及効果として現在、分散登校であることを活用し、教員も互いの学級づくりを見合い、学んでいます。

保護者の皆様におかれましては、今後も本学園の教育活動にご理解・ご協力いただくとともにご不明・ご心配な点がございましたら、ご遠慮なく学園までお問い合わせください。